

## 【薬師尾と薬師如来】

五士の一行が安徳の窪に落ち着いた時、修験者であった伊藤が素人なりに、薬師如来の像を刻み、安徳の窪の真向かいにある金見山の尾根の薬師尾に安置し、一行の安泰を祈願したといわれている。文禄の頃金生町小山にうつされ、薬師堂となっている。

## 【その他の遺跡】

切山には、小さな祠とか塚のようなもの、火の神・水の神・山の神・葉の神等々まさに神々の山である。

・五輪の石(ごりんさん)



東にある平家侍の墓といわれる

「五輪の石」木峰の中腹の「龍王宮」(山田井地区)にはこの宮に關わる雨乞い踊りが、残されている。(東の「庚申社」柿添の「荒神様」上窪の「金神さん」「お大師さん」「金毘羅さん」「愛宕山の「山の神様」平氏の丘や門松の「お稲荷さん」等がある。

## 【切山平家遺跡保存会の発足と活動】

切山の真鍋家住宅が国の重要文化財に指定され復元されてから沢山の人々が切山を訪れるようになり、平家遺跡についても話題にされるようになった。これがきっかけとなり、昭和五十二年五月に保存会が結成された。切山の平家遺跡に關心のある人であれば自由に入会できる。会結成以来一連の活動が続けられており、今後の取り組みが注目されている。

## 【さいごに】

およそ八百三十年前、切山の五人の士が、この地切山で、幼き安徳帝を守護したと伝えられている。約六か月間であるが、並々ならぬ緊張と苦労があったものと推測されます。この五士の中に、まなべ一族がいて、今も国指定重要文化財「真鍋家住宅」を管理され、地域の発展にも努力されています。

少子高齢化と嘆くことなく、

この切山では、早い時期から

「切山平家遺跡保存会」を立ち

上げ、毎月第二日曜日の午前中

「切山にこにこ市」を開催して産

業を興し、地域住民との融和発展に努めております。

また、「真鍋家住宅」において

は、毎月一日の朝に郷土の先哲

尾藤二洲の学習会を開き、読書

会も行っている。

更に、高樹齡林の桜満開のこ

ろには、歌会を開催している。

これら活動を活発にされている「平家伝説の里切山」を訪れ、探訪のうえ、見識を深めようと思います。今回計画中の日帰りバス探訪では、「真鍋家住宅」を見学するのが精一杯と思いますが、見学することによって、見識が深まる地であろうと思えます。みな様、元気を出して切山を探訪しようではありませんか。

## 【関連書籍の紹介】

「平家物語」

愛と滅亡のドラマ

見延典子(みのりのりこ)著

切山を歩く(愛媛県四国中央市)

と題して掲載しています。

・ベスト新書三五四(定価八一九円)

## 【編集後記】

第三十五回記念全国まなべ会「熱海大会」の申込締切日は、四月二十日着です。よろしく。兵庫まなべ会事務局長(誠次)